

Rotary
Club of KOBE EAST



The Rotary club of Kobe East BULLETIN



神戸東ロータリークラブ会報

No.393 2020-2021 No.2

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／鮑 悦初 副会長／大澤 勇 幹 事／樋口 一哉 広報委員長／吉田 博 副委員長／崎山 豊

例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ「ロータリークラブライフ “面白く! 楽しく! カッコ良く!”」



RI President

Holger Knaack

HOLGER KNAACK
2020-21年度国際ロータリー会長





神戸東ロータリークラブ
会長 鮑 悦初

神戸東ロータリークラブ 会報誌をご覧の皆様へ

会報誌をご覧いただき、誠にありがとうございます御座います。

コロナ禍の収束が見えない中、会員、ご家族、ロータリークラブ関係者の皆様、如何お過ごしでしょうか？平素は神戸東ロータリークラブの運営、各事業にご理解とご支援を頂き、誠にありがとうございます。

今年度の神戸東ロータリークラブの出船の風景は例年とは違い、コロナ禍の中で、“神戸東 RC ライフ、面白く！楽しく！カッコ良く！”を印に大きな帆を張って（大きな法螺を吹いて）、波乱と不安の中での出船となりました。コロナの波に翻弄され、船酔いしながらも神戸東ロータリークラブらしく！？コロナに抗って例会を続け、幾つかの事業を強行させて頂きました。毎月の第一例会での「席はサプライズ」は新しい試みでとして、出席者の皆さんから「面白い」と好評！？不評ではないと聞いています。奉仕事業、中でも我々神戸東ロータリークラブが提唱し、RI2680 地区第一、第二グループの皆さんに共

同提唱クラブとなっていていただいて実現した「コロナウイルス PCR 検査室備品寄贈プロジェクト」は、正に時を得た社会奉仕、地域貢献だと自負しています。実現できたことを嬉しく、ロータリアンとして「カッコ良い」と思っています。

運が良かっただけなのか！？平素の我々の行いが良かったのか！？クラブ内、また対外事業でのコロナの感染は無く、大過なく終える事ができました。懇親会、忘年家族会などの親睦事業、企業訪問や例年なら行えた幾つかの継続事業、青少年交換留学、または新たな奉仕事業等々、企画・準備をして頂きましたが、やむを得ず中止、実行できなかった行事や事業も多く有りました。

各委員長はじめ、委員の皆さんが活躍されているカッコ良い姿を、クラブ内外の多くの皆さんに見て頂く機会を逸してしまい、申し訳なく、また残念に思っています。この会報誌を通じて我々神戸東ロータリークラブの上期の活動の一部を紹介させていただきます。ご笑読、楽しんで頂ければ幸いです。

下期は嵐、第2次「緊急事態宣言」発出の中での出船となりましたが、“神戸東 RC ライフ、面白く！楽しく！カッコ良く！”の帆を更に大きく、高く張って（更に大きな法螺を吹いて）、我々神戸東 RC らしい！面白い、楽しい船旅となる様に、あと半分！？もう半分！？皆でカッコ良い姿をお見せできる様に頑張っています。

「不要不急のロータリー」と言われます。最後はカッコ悪い姿をお見せするかも知れませんが“踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃ損損”でいきたい！同じ阿保なら皆でロータリーを面白がって、楽しみ、カッコ良くいきたいと思っています。

引き続き、ご理解ご支援くださいます様、宜しくお願い申し上げます。



国際ロータリー第 2680 地区
ガバナー 高瀬 英夫

神戸東ロータリークラブの皆様こんにちは！

今年度ガバナーを務めます高瀬英夫（西脇ロータリークラブ）でございます。どうぞよろしくお願い致します。

ガバナーの役割は、RI から派遣された役員として、クナーク会長のテーマを伝え、ロータリーの魅力と感動を伝え、クラブが発展するよう勇気づけ、元気にする事と考えております。

クナーク会長のテーマは、

【ROTARY OPENS OPPORTUNITIES】

ーロータリーは機会の扉を開くーです。

詳細につきましては、MY ROTARY をご覧ください。また 4 つの優先事項別の要約を地区のホームページに掲載していますので、ご参照ください。これらをベースにした

クラブ会長・幹事様への下記依頼・推奨事項をよろしくお願い致します。

- ・ロータリー賞を目指す
- ・会員維持・増強
- ・ビジョン、戦略計画の作成
- ・ポリオ根絶、ロータリーカードの普及
- ・定款細則の見直し確認

- ・職業奉仕・職業倫理の研修の充実
- ・危機管理委員会の設立
- ・他クラブへの訪問
- ・なぜロータリアンであり続けるのかの自問
- ・オンラインミーティングの普及

また本日お話ししました、今年度の地区スローガン「ロータリーの魅力を語り、伝えよう」については、地区のホームページ、ガバナーメッセージをご覧ください。

各クラブの魅力を他クラブへ伝達し、ともに成長できる機会にしたいと考えています。

お互いを感じているロータリーの魅力を語り合うきっかけ作りに、「ロータリーからあなたへ」を配布致します。無尽蔵の宝の山であるロータリーの宝さがしにお役立て下さい

クナーク会長のテーマ、地区のスローガンをよりよく理解して頂くために、国際協議会に参加した者として参考意見を述べさせていただきます。

① OPPORTUNITIES と CHANCE の違い

英語では、CHANCE は偶然性が高い意味合いが含まれるのに対し、OPPORTUNITIES は自らが主体性をもって作り出す機会であり、この違いを理解し、世界のロータリアンと認識を共有いたしましょう。

②分科会で、会員の皆様さんから以下の質問についての意見交換がありました。

- ・「RI ビジョン声明、4 つの優先事項はロータリーを間違った方向に導いているのではないか？」
- ・「ロータリーは人道的奉仕団体に変質したのか？」

私見として、RI は世界情勢を俯瞰しつつ最大公約数的指針を出す立場にあり、時代の流れを意識し、外形は適宜変化するが、ロータリーの本質



である原理・理念（ロータリー目的、奉仕の理念、中核的価値観、モットー、寛容の精神、人づくりの使命、世界平和の希求）は何ら変わっていない。RIの動向（人道的奉仕活動の強調）は変質ではなく、時代の流れに呼応した多様性と捉え、不易流行を肝に銘じ、我が地区の誇るロータリーの心と原点を求め続ける事が肝要と考えます。

ご参考までに、ラジェンドラサプー氏（元 RI 会長 1991～92 インド出身）の 2009 年国際協議会講演より、「職業奉仕：忘れ去られた部門」を下記します。

【職業奉仕を取り去れば、ロータリーは単なる地域の奉仕団体になってしまう。

又職業奉仕から倫理を取り去れば、完全にその意義が失われてしまう。

世の中には人道的な活動に取り組んでいる NGO が数え切れない程あり倫理や価値観を信奉する団体に事欠きません。

しかし、職業を基礎とした倫理と人道的な奉仕を車の両輪として同等に重要視している団体は稀です。この稀な団体がロータリーです。

精神的な指導者であるスワミジ氏にこう聞いたことがあります。

「時として自分の仕事を犠牲にしてまで、ロータリーのために時間を割き、任務を果たすことに、果たして意義があるのか」と。

「人間として成長できるなら、それは意義がある」がスワミジ氏の答えでした。】

コロナ禍の影響で、3月～6月ほぼすべてのロータリー活動が停止という苦渋の選択をせざるを得ませんでした。FACE TO FACE を大切にしつつ、オンラインミーティングを加速させ、新しいロータリー活動の機会の扉を開けましょう。

クナーク会長より、「課題の中に機会つけ出すのがロータリアンです」とのメッセージが届いています。出来ない事を嘆くのではなく、今できる事、すべき事をしっかりやり切り、次の時代に備えましょう。

貴クラブの益々のご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍をお祈りしています。





名誉会員 五百旗頭 真

「コロナ後の世界と日本」

我々は忘れがちですが、人類史は感染症と共に生きてきた。例えばペスト菌、これは細菌が蚤を通じて人に移す訳です。14世紀のヨーロッパでは、人口の3分の1が亡くなり、殆どヨーロッパ社会が崩壊に至るといってほど凄まじい、今は犠牲者が多いですけど3分の1というのは無茶苦茶ですよ。日本で言えば、人口1億2,000万人ですから4,000万人が死ぬなんて事になるともう正気でおれないですよ。そういうペストもコレラも結核も、細菌による伝染病と言うのは大変なことでありましたし、細菌よりも遥かに小さなウイルスで有名なのは天然痘で有史以来ありました。エジプトのミイラを分析したところ、天然痘が原因でやられていた事が分かりましたね。最近ではエイズ・インフルエンザ、これらはお馴染みではありますが、とは言いながらこう云う細菌・ウイルスによる感染症は、医学は大したもので20世紀には殆ど抑えてしまっているんですね。

今や結核すら怖くない。ペスト・コレラはそう心配ないし天然痘も制圧した。ワクチンや特效薬が出来ている訳なんです、その中で今なお手強いのが

新型インフルエンザなんです。取り分けインフルエンザA型というのが実は変異が上手なんです。毎年毎年姿を変えてくる。ワクチンや特效薬が出来ると、その時にはもう変異しているというのが特徴なんです。近年のサーズ・マーズ或いはエボラ出血熱は物凄い強毒性で、10%ぐらいの人が死ぬ類のものなのですが、特效薬・ワクチンを作る暇がない突発性なんです。只、これ等サーズ・マーズ・エボラ出血熱は物凄い殺傷力を持っている事が仇になって世界的パンデミックにならないんです。その地域で爆発的に人に移して殺して、住む宿が無くなっちゃうのです。細菌と違ってウイルスは、自分では生きてゆけないのです。人を宿にして、そこに入ってその中で暴れるんです。ですから移る人がいなくなると衰える訳です。殺傷力が強力なサーズ・マーズはその地域の人を移しては殺してしまうので、宿を失って地域的に崩壊するんです。世界に広がる暇がなくて、それで救われているのです。そういう中で新型インフルエンザはそれをやってくれないんです。それが100年前のスペイン風邪と呼ばれた新型インフルエンザとこの度の新型コロナウイルスなんです。そっと忍び込んで、感染してもその内8割ぐらいの人は大したことの無い軽症なので油断するのです。そのうち変異し強毒化し、襲い掛かるわけです。1918年第1次世界大戦末期に暴れたスペイン風邪で、第1波がアメリカのカンザス州の陸軍基地で発生したんです。軍というのが、今でいう三密そのものなんです。狭いところで、たこ部屋のようなところで兵士が住み込んで、私の防大校長時代にあった様に大声で挨拶をすることで、正に飛沫を飛ばし合うのです。このようなことが軍隊のあり方なので、船に乘せられて大西洋に渡ってヨーロッパの港から幹線道路に沿って全ヨーロッパ・全ユーラシア大陸へと、軍というのが感染源となっていくのです。2009年に新型インフルエンザが、大したこと



の無い程度でしたけれども世界に広がったのです。その時私が偶々防衛大学校長をしております、2009年3月にメキシコで新型インフルエンザが流行りました。これは実は1918年のスペイン風邪と同型のA型のH1N1だったんです。

これは90年ぐらい消えていたんですけど蘇ったんです。私は偶々その前の年か2年ぐらい前に、1918年日本を襲った新型インフルエンザを描いた速水融さんという方の本を読みました。日本で初めて出たまとまった本で、その本を読んでショックを受けました。

軍が発生源になる。防大校長としてどう対処するか。防大はご存じの様に、宿舎は8人部屋です。スペイン風邪が海外で流行っていると聞いた時に、防大内の幹部を集めて「もし防大内に発生した時にこれにどう対処するかと研究してもらいたい」と言いました。

中には「ちょっと先走り過ぎて、前のめりになって心配しすぎじゃありませんか」という意見もありました。しかし、神戸で感染者が出て東京周辺にも広がり、7月末には防大生に1人新型インフルエンザの患者が出ました。警戒していたことが起こったんですね。私はその時出張で神戸に帰ってきてました。深夜に電話が掛かってきました。翌日の日曜日にとって返して防大に行きましたら、既に幹部以下が対応してました。軍が感染源になるなど徹底して事前対応を決めていたので、その患者を隔離して、衛生館という建物に移しまして、他と接触させない処置をしました。又、8人部屋ということですから後の7人は濃厚接触者の危険極めて大ですね。この人たちを皆違う部屋に移してその建物の中で接触しないようにしました。そしてその学生舎は4階建てで、同じ階の人は既に接触している危険性があるということで、出入りを封鎖して他の階の人との接触を断ちました。またこの様な建物が全部で4つあ

るので、その出入りを管理して自由に行き来させない様にしました。更に防大の正門の入り口で封鎖して自由に行き来させない。この様に報告を受けて、やれることはあったという間にやっているのです。最後に気になったのは、2,000人の防大生は突然“フリーズ”と言われて動けなくなった訳です。彼等は全員この問題を理解しているのかと幹部に聞いたところ、「理解している人もいるけれど、何事かわからずに戸惑っている人もいるでしょう」と言われ、私は「そうか分かった。じゃあ明日の正午に、私は学内の放送で全防大生・教職員に話をしよう」と言って翌日正午に放送をしました。第1次大戦1918年のスペイン風邪がどんなに大変であったかを。結局当時アメリカで60万人、ヨーロッパで230万人、インドで1,250万人、インドネシアで50万人、日本は38万8,000人、面白い事なんですけど日本だけ40万人と言わずに38万8,000人というのはどうしてかと言うと、他の国は正確に調べられていないんです。どうしてかと言うと、大戦中ですから若者がどれだけ死んだかという事は重大国家機密で、沢山の人が亡くなったと分かれば国力低下という事が敵国に分からせてしまうので、お互いに絶対に言わないですね。実際には戦場で第2次世界大戦中900万人の人が死にました。実写フィルムに基づく映画が去年出来ました。その映画の中で、当時の戦いのかなり悲惨な状況が克明に描かれていました。

塹壕戦になっちゃいまして、膠着状態になって塹壕戦のじめじめした中で生き延びているという心理的に物凄く辛いですね。相手塹壕を大砲で撃って蟻1匹生きていないだろうという事で突撃戦に入っていくのですが、然しながら相手軍の機関銃の餌食となる様な信じ難い殺戮戦となりました。そして喪失感が強かったところに、18年3月にインフルエンザに第1波が来ました。第1波は割と軽かったんです。ところが夏から秋にかけて第2波が来ました。

第2波は猛烈な変異と猛毒化していて、若い20代・30第の人達が感染すると2日の内に倒れてしまうのです。これは戦争を遂行しているどちらの側にとってもやりきれない訳です。戦場で2,500万人の死者と私は一応見えています。然しながら、これは一番少ない見積もりなんですね。4,000万から5,000万人という人もいますし、人によれば1億人とも言われています。何せ国家機密ですから、正確なところは分かりません。

日本だけが、内務省が警察機構を介し極めて正確に調べたんです。従って38万8,000人となったのです。そういう時代背景を正午の放送で学生達に話をして「君たちが果たして第1次大戦の時と違ったウイルスとの戦いを勝利できるかどうかが問われているんだ」と話した。それから1655年ヨーロッパの第2のペストが来た時に北イングランドの村に350人の小さな村ですが、そこにペスト患者が出たんですね。その時その村長さんが何人かと相談してペスト発生をイギリス社会に漏らさないで自己封鎖を決断し、自ら村を封鎖し出入りを止めちゃったんです。その結果、その村の74%の人がペストで死んでしまい、生き残ったのはわずか83名という惨憺たる体験をしたそうです。私がある村に行った時に銅板がかかっており、「この村は1655年ペストが流行した時に、イギリス社会を守るために犠牲を敢えてした偉大な村である」と書かれて観光地になっていた。

自らの村の4分の3の犠牲を払ってでも社会を守ろうとしたという事も学生たちに話をし、「君たちも、横須賀市民に日本社会に迷惑をかけてはならないという決意が必要なんだ」という話をして1週間・1カ月を耐えて頑張っただけで、その後には楽しんでいた夏休みを出来るように、今はひたすら耐える様な放送をしました。幸い2009年の時にはあまり強毒ではなかったんですね。

それでも私はショックを受けたんですが、1人が感染し、次の日は3人に、さらに翌日には5人になってやがて10人になったんです。これは大変だと思いました。発症してわかる前に人に感染しているのは明らかなんです。これは果たして止まるんだろうかと、大変焦燥感に捕われました。始めから何重にも防波線作って遮断してますので、結局十数人で止まりました。良かったと思いました。夏休みに運動部の合宿から帰ってきた人がもう1人発症しました。やはり同じ様に十数人で止まりました。断固接触を止めて対応すれば、十数人で止まるという事です。原始的だけれど、ワクチンも特効薬も無い時にそれしかないという事を私なりに認知した次第です。他方ある意味、接触を許していたらウイルスの餌食になるという事は明らかです。

中国政府は困ったものです。12月初めから武漢で原因不明の肺炎といったものが出ていたのを、ああいう強権政治の国というのはトップがその事を認め、その事の政治的意味合い、中国として世界に対してどういう風に説明することを発表しなければいけないですね。

当然、対応が遅れて武漢は火の車になっちゃいました。日本はその最初において、安倍首相は、習近平の中国と良い関係を、米中が対立する中で中国が日本との関係までは悪くしたくないという関係を利用して、武漢地域にいる邦人をチャーター機で救出する。それは一応成功しました。ところがその後、1月25日からの中国の旧正月である春節、その2日前に武漢での感染症封鎖を中国自身が認めた時に、中国特に武漢・湖北省からの入国を禁止する措置をやったら、武漢からの団体来日客によるクラスター感染を防げたであろう。

更に驚いたのは、アジア周辺だけではなく、あっという間にイラン・イタリア・スペインで感染大爆発を起こしてしまったことです。アメリカもそうで



すし、イギリスのジョンソン首相は「こんなものは大したことじゃない」と初めはコロナ関係の会議にも出席もしなかった。それからスウェーデン方式というものをご存じの方がおられると思うんですが、抗体が社会的にある程度出来て、そういう感染症は止まる。だから抗体を作るように、なだらかに感染を広げていく方が良いと言ったことです。これがスウェーデン方式です。ジョンソン首相もトランプ大統領もブラジルの大統領も同じような考えで、結果そのような国はひどい感染国となりました。コロナというものを甘く見て、濃厚接触を許していたら、オーバーシュートがどこでも起りうるわけです。武漢でも大邱でも日本の屋形船でもそうです。一番いけないのが、無知と偏見です。アジア・中国はまだ衛生状態・医療体制が甘いから、あいつらのところでは起こるわけで、我々は大丈夫だといった傲慢な考え方が悪いのです。

広がった時には最早クラスターも何も分からないし、市中感染になっているのが欧米のケースです。驚くべきスピードで、2カ月ぐらいの間にヨーロッパを經由してアメリカ大陸までやられました。これはスペインインフルエンザの時には半年かかったんです。ところが今度は2カ月で全世界パンデミックになってしまいました。どこもやられているかと言へば、全然そうじゃないんです。それが台湾・香港・ベトナムです。台湾とベトナムは特にそうです。1月9日に中国は武漢に新型インフルエンザが流行しているという事を1カ月前から公的に遡って認めました。実は大晦日12月31日に中国政府はWHOに内報しています。原因不明の肺炎が武漢辺りに発生していると。その日に台湾は中国との出入国を禁止しました。その日からという事は凄いですね。どうしてかという事を、いろいろ事情を知っている人に聞いてみますと、中国が発表する前から疑ってたという事です。周辺のベトナム・台湾からすると、

中国は恐ろしい国なんですね。嘘ばかり言って真実を中々言わないし、自分たちに利益になることしか要求しない。だから発表を信じてはいけないし、自分なりに調べなければならぬと知っているんです。武漢のお医者さん達がメールして更新しています。それをモニターして状況が分かっていたという事です。12月31日に中国が非公式にWHOに伝えた。その日に台湾は出入国を管理していた。素晴らしいです。しかも2005年香港で発生したサーズが台湾に飛び火しましたし、ベトナムにも飛び火しました。

その時に大活躍したのが、カルロウバーニーというイタリアのお医者さんで、その人がハノイに居て、一番良い病院でしかも日本の援助でできた病院でそこに感染者がいて、ウバーニー氏はWHOから派遣されていて感染症の知識があったので、WHOに連絡をしながら、ベトナム政府に「これは大変な事になるんで、ちゃんと対応しなければ駄目だ」というんですが、政府はこれを聞かなかったのです。日曜日に保険大臣にアポを取り付けて、3時間かけて説得しやっと分かって貰って世界に伝えることになりました。

その頃、今活躍してらっしゃる東北大学教授の押谷さんとWHOにいらした尾身さんでアジア担当の役員でしたが、中国の広東でサーズが始まった事に間違いがないのですが、中国政府が全く認めないので、押谷さんはわざわざ北京まで行って中国政府を説得しようとしたが、中国政府は頑として認めようとしなかった。そうしていたら、ハノイのウバーニー氏から連絡があって、「こちらは大変なんだ。押谷君、助けてくれ。」と言われ、押谷氏はハノイへ飛んだところ、ウバーニー氏はベトナム政府の説得に成功したのだが、その後、自分が感染してしまい倒れてしまった。彼はタイのバンコクの病院に移されたのですが、そこで亡くなりました。押谷氏は遺志を継

いで、サーズの治療にあたり特効薬は無かったけれども3カ月ぐらいの隔離で終了を宣言することが出来ました。その後、東アジア全体のサーズの事について報告書をまとめ上げたのです。当時彼は40代で国際的な活躍をしている日本人という事で、緒方貞子と並び国際的に認められた人でした。そういう人たちがこの度、日本の救いとなりました。尾身・押谷それから北海道大学の西浦という方がおられたので、日本では死者が1,000名ぐらいで推移しているわけです。ドイツはヨーロッパの中では完全に犠牲者が少ないと言われているのですが5000名を越えています。

イギリス・フランス・イタリア・スペインでは万を越えています。アメリカに至っては14万人ととてもない数字です。日本は何故ならないのか。BCGをやっていたとか、感染症の予防注射の複合効果があるとか。有るかも知れません。まだ確認はされていないけど、色々な要因があるでしょう。しかし私の見るところ、一番単純なことは、これは人との接触によってしか感染できない病気なんです。そういう時どう対応するかという事で、厚生労働省にクラスター班が出来て、政府の関連にも専門家会議が出来て、尾身さんがその代表者で私は3週間ほど前に私が主催している内閣の研究会で会って押谷氏が尾身さんに「尾身さん、変なんです。普通は感染症は同心円的に移していくんですよ。1人が2人、2人が4人、4人が8人と・・・ところが今度のコロナウイルスは違って、5人に接触して4人は何もないんですよ。無症状か軽い症状しかないですね。ところが5人のうち1人だけが猛然と10人・20人と移していくんだ。そういう不思議な形態を取っているんです。

だとすると、日本には感染症の医者は10人といないし、医療体制もアメリカのCBCは8,500人も職員がいるんですよ。日本の感染症研究所は二桁少

ないですよ。ですから、人材もいないし、医療体制も足りない。そういう中でもやれるんじゃないか。つまり、5人の内、4人を追いかけていたら日本の医療体制は無理になるが、だけど5人に1人捕まえて押さえていこうとするなら我々は出来る。それをクラスター方式として、押谷氏が提案して見出したのです。これは、世界で日本だけなんです。ヨーロッパ・アメリカではクラスター段階を過ぎて、市中感染になってどこが元だか分からない。こういう風になってから認識するんです。日本は台湾やベトナムほどではないですが、それなりに緊張感を持ってたし、クルーズ船の話もありました。早いうちに感染者が出て、どこが接触者の場だったとかそこから広がっていった筋道を見つけ、それを押さえていく事です。それをやる事によって、武漢発の第1波についてはこれはほぼ撲滅しました。ところが3月10日にヨーロッパ経由で入って来たんです。京都産業大学の学生が春休みの旅行で帰ってきた後コンパに次々と出て行ったのです。ヨーロッパ経由のウイルスは少し強毒化して変異を多少していたのです。それが入って来て、今度は中々クラスターを見つけきれないというのが4月を中心にした問題です。ここはクラスターが半分しか分からないので、後の半分は市中感染によるものでどうするか、そこで重視したのが三密理論です。人と人の接触、それ自体が一番の問題で、出ないで人と交わらないようにする三密理論を専門家たちが言い、そして西浦さんが8割理論を提唱し「8割接触を減らしたらコロナは負けて衰退し、7割ならちょっと微妙なところで、5割なら広がる」という事を数量分析を使って打ち出した。これについて日本政府・安倍さん達はちょっと分かって無い所がありました。でも良いのは、ジョンソンやトランプやブラジルの大統領の様に自信過剰じゃないですね。あの人達は自信過剰だから、「そんなものどうって事はない」と言って、変な無知に



よる強気で対応を否定するんです。折角、世界的学者がいるのにその意見を国として政府として実施しないのです。

日本の場合には、安倍さんそう自信が無いので、専門家のおっしゃる事をまあ重視して小中高共に休校と、これは非常に良い事だったんです。日本社会は初めて事の重大性を認めざるを得なくなったんです。その後しかし PCR 検査を今にやりますと総理が公的に言ってるのに、厚生労働省がその様に動かないんです。厚生労働省だけでは難しいかもしれないけれど、大学病院があちこちでその様な事を出来るんですね。ところが厚労省は文科省にお願いして協力してこういう非常事態だから一緒にやりましょうと新しい対応をしようとしません。今までの独占権をそのまま守ろうとするんです。それを安倍首相ともあろう者があんなに防衛省に付度して文章の改ざんとか焼却までやって、コロナの中で自分の子分が大臣をやっている厚労省と文科省の二人を官邸に呼んで「こういう非常事態だから、何としても協力せよ」言ったら従わざるを得なかったと思うのですが、それをしなかったのです。

したとしても、厚労省と文科省が動いたかと言うと怪しいですね。いずれにせよ動かす事が出来なかった、そういう中で救いになったのが知事と国民です。専門家が打ち出した物を、例えば「放っておいたら 42 万人死にますよ」と西浦さんが言い、それを大阪府の吉村知事が真剣に受け止めて布石を打たれました。それと北海道の鈴木知事も、雪祭りに中国から旅行者やって来た事を危惧していたとのことで、全国的に緊急宣言を出す前に北海道としての緊急宣言を出したのです。その時、彼は押谷さんや西浦さんに個人的に相談して助言を得てるんですね。政府は割とその後ふらふらしたんですが、知事レベルが真剣に受け止めた訳です。加えて国民が随分真剣に受けとめたんです。メディアの効用も大変

なものです。

色んな意見が出ますけれど、その中で皆よく分からないけれど、専門家筋がこうだと言った事をメディアが即伝えますね。そうすると世界の中で日本だけなんです。国民レベルで、単なる自粛の要請でしかないのです。他の国は法に基づく処罰規定があって懲役刑まである。そういう所でも中々いう事を聞かない。日本は国民の民度の高さ故にこれを受け止めて、非常にこれを良く守った。そういった意味で最初の武漢とヨーロッパ経由の感染爆発を避けることが出来たのです。然し十分な緊急事態法がなく、憲法にも規定が無い。憲法に規定が無いから駄目だという人がいます。それは大間違いです。憲法は一般規定です。

それより大事なものは、個別法が一般を凌駕するという法律の原則です。法学部の人なら知っているでしょうけれども。憲法に書いてあるかどうかよりも、実際に災害対策基本法があって、災害救助法とかね、個別法があるとそれによって国は具体的に措置する。いくら憲法に書いてあっても、国がやる気がないとか或いは感染症対応の能力が無いという、絵にかいた餅なんです。日本の場合には、憲法は無いけれど然し乍ら、緊急事態法も無い。

そして感染症に対する CDC の様な立派な組織も無い。数少ない人が的を射た事を云った、それを知事や国民が受け止めて協力した。という事によって、1000 名ほどの犠牲者に留まっていると言った事で、大変不思議な姿だと思います。コロナと共生とか with コロナとか今、経済活動の再開に当たってスローガンになりました。経済活動の再生とそれからコロナを押さえるという両立が必要だと皆が言います。それはそうですが、経済活動をなんとしても再開しなければ、それで自殺しなければならない人も一杯います。それでコロナで死ぬよりも沢山の人が死ぬかもしれません。その通りです。だけれども経

経済活動再開に主軸をおいてコロナの方を甘く見ると、どんなに凶暴で獰猛な敵かという事を忘れちゃうんですね。戦争よりも、第1次大戦よりも沢山の人を殺すウイルスなんです。ですからウイルスが爆発しないようにという事に軸を置いて、その限りで経済活動を再開して、その軸の置き方も間違えるとヨーロッパもアメリカも皆また大爆発を起こしてしまいます。日本はそれを繰り返さないように頑張らなければいけない。それから政府は専門家会議をいじくっているんです。西浦さんを外しているんですね、うるさい人ですから本当の事を云うんで面倒くさいから。

だから知事レベルでそういう人達に地域コミュニティの現状を分析させ、例えば東京が今問題になっている新宿区の件で、どこがどう問題なのかをしっかりと分析して、ピンポイントで聞くことをやらなければいけない。その為には専門家の分析を仰ぐという事が不可欠ですし、それから愈々となったら、やろうとしたら「なんでお隣は自由にやっているのに、うちだけしなきゃいけないのや」そうになったら、やはり法律が要るんですね。緊急事態法的な。ここに打ち出して頂いた「ポストコロナ社会に向けて」の資料ですが兵庫県で12名の識者と共に取りまとめをして先週知事に報告したんです。大阪の吉村知事ばかりが目立っているのですが、本当は兵庫県の方が知的で本題に対する先端的な対応してくる伝統を持っているのです。防災に対しては特にそうです。高度成長の経済に対して心豊かな県民生活或いは重厚長大ではなくて先端技術を持った産業社会にと言った事をやってきたのに、それにしてもコロナに対して何の発言も無い。と私はそれを遺憾に思っ、失礼ながら知事に個人的に電話して「もう少し兵庫県独自の認識と方向性・サーチライトがあって良いんじゃないか」と申し上げたら、「どうもご助言ありがとうございます」とそこまではよかったんです

が、「なら君がやってくれ、会議を作って取りまとめしてくれ」と言われた次第です。

その中に書いてあるんですが、兵庫県は自宅療養はゼロである不思議な県です。重症者は入院です。中央市民病院の院内感染は遺憾ですが。中レベルの人はホテル・宿舎に、軽症の人は自宅という割り振りが全国的ですね。ところが兵庫県は自宅療養ゼロなんです。

つまりホテルや宿舎をたくさん用意しているんです。借り上げているんです、そこへ軽症の人も入ってもらって一応医師の管理下にしているんです。非常に優れた対応です。

やはり法律によって、緊急の事態には全体を生かす為に、個人の都合は制約しようというのは作っておかなきゃいけない。それをやったら、独裁権の行使だとか、プーチン・習近平とか言った様に、永遠に自分の権力を作るんじゃないかと思われそうですが、成熟した民主主義社会ではそんな事はあり得ません。その時には規制を強いるけれども、事が済んだら直ちに自由を回復する。これが先進社会です。成熟した社会です。そしてその時に不利益を被った人には直ぐに補償する。そのすぐに戻すという事と適切な補償があれば、国民は理解します。そういう制度をしっかりと打ち立てて、これから強力化して、スペイン風邪の時と様に猛烈に強くなってやって来た時に対応する時にそれが必要だと思います。

どうもご清聴ありがとうございます。





地区会員維持増強委員長 宇尾 好博

「会員増強を考える」

「会員増強を考える」神戸東ロータリークラブをさらに魅力的なクラブにする為には、というテーマでお話しさせていただきます。

高瀬ガバナーはロータリーの自信を持ってロータリーの魅力を語り伝えよう！ロータリーの心と原点を求めよう！と言われております。そして自らの言葉でロータリーについて語る事が出来てますでしょうか？このことが地域社会への扉を開く事であり、ロータリーを未来に繋ぐ事になると言われております。会長はロータリークラブライフとして面白く、楽しく、カッコよくと方針を掲げておられます。その言葉の中で、会員の維持と増強を分けて考えて頂けたらと思います。「近き者喜ばば遠き者来る」という言葉があり我々の奉仕活動が地域の皆様に喜んで頂ける、この事が出来れば必ず多くの方々がこのクラブに理解と御支援を頂けると思います。「これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」という言葉があり「5年、10年、100年とこのクラブの歴史を刻みましょう！さらに魅力的なクラブになると信じています。最後

に新たな仲間が加われば幸いです。」と会長はおっしゃられております。目標設定を明確にする事が大切です！

夢を実現するためにはやることをやらなければいけません！高瀬ガバナーからはグループフェスタをやりたい、新入会員の研修を行って同期の絆を深め、ともに研鑽して将来の地区を担う方を育てて欲しいという要望を出しております。9月からは2680地区のガバナー月信の後ろには各クラブの入会者、退会者が解り会員維持がどの様に行われ、増強がどの様に行われているのか解るようになります。是非御活用下さい。

ロータリーの目的は知り合いを広める事によって奉仕活動を行うことですが、会員増強の役割分担は地区の公共イメージを構築する、そして会員の皆様に情報を提供する。クラブは組織としてクラブの未来像を考え、会員維持増強のプランを立て会員の研修を行う。会長、幹事は是非増強に注力して頂き、増強委員長は会長の信頼を基にリーダーシップを発揮され具体的アクションを起こし成果を残して頂きたい。会員の私達は人脈を活かし社会貢献する事によってロータリーを世に広めましょう！さて過去5年間の当地区入会者数ですが、昨年はコロナ禍の中136名の入会、230名の退会でしたが、ガバナーは地区で300名純増を希望されており各クラブでは退会者が出る事前提に増強活動をお願いしたい！当地区は23年前と比べて35%減り、今年6月末で2659名です。女性不在のクラブは30クラブで、女性会員比率は2018年世界で22.8%、日本は6.7%、当地区は4.6%で日本の中で下から2番目、逆に言うと伸び代の大きい地区と言われております。昨今クラブの柔軟性と多様化ですが、1業種1名の撤廃、例会出席のメイキャップ制度導入、親睦活動の出席扱いとなり本来のロータリーに憧れて入会された方も今はどう思われますか？

2019年の規定審議会において職業分類による入会者の制限が撤廃され、メイキャップも年度内ならいつでも良いことになりました。RIは例会出席基本から奉仕活動参加へ舵をきりましたが、クラブの柔軟性や多様性は熟考する必要が在ります。増強が上手くいっている高崎ロータリークラブは年間51名増でしたが、上手くいってないクラブの原因はベテラン会員を活用出来ず、新会員のフォローが出来ず、クラブ内で研修が出来ていないなどです。若手女性が入らないクラブは失礼ですが魅力の無いクラブでは無いでしょうか？新しく入られた会員は、新しい人脈を背負って来られますので大いに活用させて頂き、ロータリーをどの様に感じどうすれば魅力的になるか一緒に考える。

さて一昨年のアンケートによるとクラブの年齢分布で等クラブは地区平均より60歳以上の方が多く、このまま10年後には60歳以上の占有率は86%になります。

クラブの会員維持増強に不安を感じているクラブは57クラブあり、具体的増強プランを行っているクラブは35クラブ、行っていないクラブは半数を上まっており新たにアンケート調査をお願いしてもやらないクラブはやりません。プランを立てて成功したクラブは45%、これから楽しみだというクラブは40%でした。是非プランを創って頂きたい！

当クラブは若い方が多数入会されどの様なプランを創られたのでしょうか？交流会で成功をおさめたと聞いております。須磨ロータリーでは今勧誘されている方を全会員が情報を共有し、周りからフォロー頂いたと聞いております。次は退会数ですが地区では2年以内で平均24%、当クラブは30%5年以内平均43%、当クラブは49%でここに問題点があり、50歳代の退会数が多く、退会理由の転勤は22%で少なく退会防止策として新入会員にカウンセラーを付けたり歴代会長経験者との座談会を開

いたり職業奉仕委員長の講義を聞いたり、休みがちな会員に会いに行ったりして対策を打つことが大事です。

さて、この神戸東ロータリークラブは活力に満ち溢れていますか？ロータリアンとして現状に満足されていますか？ロータリーの魅力を伝えるのは難しいですが毎年東京では会員基盤向上セミナーが行われ地区の増強委員長も参加します。その場の質問で「会員増強のコツは何ですか？」という答えに委員長は「それは情熱をもってやる事や！」と答えたそうです。皆様はロータリーがお好きですか？ロータリーを情熱を持って語る事が出来ますか？ロータリーを楽しんでいらっしゃるでしょうか？ロータリーに惚れ込んでいらっしゃるでしょうか？あるパストガバナーがメンバーに「あなたはロータリーが楽しくないでしょう！何故か解りますか？今まで一度も頭までどっぷりロータリーに浸かった事が無いからや！一回頭までどっぷり浸かってみろ！」と言い、そのメンバーは言われた通りどっぷり浸かり、今ではロータリーを楽しんでいらっしゃいます。あなたはロータリーの基礎知識、理念、組織を御存じでしょうか？会長は「是を知る者は是を好む者に如かず」と仰りましたが、ロータリーの基礎を知った上であれば更に好きになれます。ロータリーの歴史を知る事がロータリーを知る近道です。歴史の中に理念や組織を知る事が出来、変化を知る事が出来ます。つまり自分やクラブの立ち位置を知る事が出来ます。更に大事な事はクラブ内にいらっしゃる素晴らしい先輩ロータリアンの話を聞いて素晴らしいロータリアンになる事です。この中には様々な経済団体や業界の理事役員の方がいらっしゃいますが、ロータリアンは職業倫理を同業者に伝達する任務があり、組織や業界をいかに良くするかの責任を負う事がロータリアンの責任である。会員増強物語は増強を考えるなら是非読んで頂きたい！会員増強は新たに友を



得る事、会員の維持を図る事が大事で当クラブも100人を超えて自然に増えると思わず努力が必要だとおもいます。会員増強の目的は会長が仰る「ロータリーの理念を広めて良き友を得る」会員の業種が増えればクラブが変わって活性し良きロータリアンが地域を良くすることになります。5年後、10年後のクラブの姿を真剣に考え、会員が入会してきたクラブをどうするか、地域へどう貢献するのか、どのようなクラブになりたいか？という事が大事です。出席免除の会員の方は自分が育った、育てたクラブでするので出来る限り出席頂きたい！ロータリーの親睦はロータリーの全てではなく例会に来ていかに学んでも大事です。皆さんは新入会員に声を掛けられますか？ロータリーの事が解らずに不安で入会される方に本気で心を配っているのか考えて頂きたい！会

長にはクラブの未来をお話し頂きたい、会員の方は本気で聞いて頂きたい！今日の話は智であり、智に働けば門が立つのは仕方ない、情に左右されれば流されますし(?)、意地を通せば窮屈になります。これを皆さん乗り越えて素晴らしいクラブを創って頂きたい！

コロナで大変ですが7月1日には地区で11名入会されました。7月中に36名の入会、退会5名でした。この数字はコロナ禍を言い訳に出来ないと言っています。今、ロータリークラブは地域にどう貢献が出来ますか？会員、会員企業にどう貢献が出来ますか？私達は一丸となってコロナ禍で考える必要が在るのでは無いでしょうか？

今日の話によって当クラブ更に魅力的なクラブになれば幸いです。御清聴有難うございました。





ロータリー財団委員会

委員長 三戸岡 英樹

「ロータリー財団月間に因んで」

ロータリークラブは皆さんご存知の通りポリオ撲滅の全世界的な運動（GPEI: Global polio eradication initiative）の中核をなしており、もう少しで地球上からポリオをなくす所まで来ています。ロータリー財団の補助金は6つの重点分野（疾病の予防、安全な水の供給、教育の支援、地域経済の発展、母子の健康、平和の推進）からなり、その中でも疾病の予防が最も大きな割合を占めています。人類が地球上から根絶に成功した唯一の感染症は天然痘ですが、その特徴は①不顕性感染がほとんどない（無症状でうつすことがない）②人獣共通感染症でない（ヒト以外に感染しない）③有効なワクチンがあった（エドワード・ジェンナーの牛痘を改良）でありポリオはこの3条件を満たしており撲滅できる可能性があるのです。国際ロータリーから送られてきた「ロータリーとポリオ」（動画）を流しポリオに対するロータリーの取り組みの歴史について観ていただきました。現在野生株のポリオウイルスが残っているのはアフガニスタンとパキスタンのみとなりゴールはまじかです。ロータリーのGPEIに対する補助金は

ビル&マリンド・ゲイツ財団によりその倍額が上乘せられるため結果的に3倍の補助が可能になります。ロータリー財団への寄付をよろしくお願いいたします。現在私たちは新型コロナウイルス（COVID19）禍の真只中において天然痘、ポリオのお話をさせていただくと共に卓話の後半はこのウイルスについてのお話をさせていただきました。新型コロナウイルスの感染力は季節性インフルエンザより少し強く、ポリオと同程度、致死率は1,000人に1～1.5人程度で季節インフルエンザより少し高く、10年前のスペイン風邪とほぼ同程度、天然痘・MARS・SARSなどよりかなり低いことがわかってきています。感染の仕方は飛沫感染と接触感染（空気感染の可能性はあるが立証されていない）、感染者の約80%は1週間程度で軽症、無症状のまま治癒、約20%が発症1週間頃から症状が増悪し入院、全体の約5%が1週間～10日目以降に重症化すると考えられています。重症化例の入院が非常に長くなるのが特徴です。重症化のリスクファクターは高齢者（65才以上）、心血管疾患、肺疾患、動脈硬化性疾患（糖尿病、腎臓病、肥満）です。診断された人の内重症化する割合と死亡する割合は本年初め（1-4月）に比較すると6-8月ではすべての年齢で軽快傾向にあるようであり、医療機関が治療に精通してきたことやウイルスの変位などが考えられるかもしれませんが。感染者が増えることと重症者が増えることはシンクロしており現状では感染者数を抑えることにより重症者を減らし医療崩壊を招かないことが最も重要です。集団免疫による新型コロナ戦略を行ってきたスウェーデンでは最近感染者数が激増しており方針転換を迫られています。コロナ対応の優等生である南半球のオーストラリアやニュージーランドでは10月、11月の夏期に入るに従って感染者数は下火になっています。北半球の現状を考えると新型コロナの感染力が季節に依存している可能性が



あるかもしれません。非常に興味深いのは7月、8月の冬期に季節性インフルエンザの発症者数が例年に比べ極端に低く（ほぼゼロ）、これは南半球の他の国々でも同様です（チリ、アルゼンチン、南アフリカ、パラグアイ）。新型コロナに対する防疫対策がインフルエンザに著効している可能性があります。新型コロナとインフルエンザを比較すると新型コロナでは無症状感染が60%程度までであるのに対してインフルエンザは10%程度、ヒトにうつす可能性のあるピークの時期は新型コロナでは発症1日前から発症日、インフルエンザでは発病2、3日後であり、新型コロナがより私達に見えないウイルスであることがわかります。現在感染者数は全国で急増している状態であり神戸を含む関西でも同様です。その時その時の状況に合わせて感染対策は強く

したり、弱めたりが重要ですが今は明らかに強める時期であると考えます。感染予防には感染機会をなくすステイホーム、3密回避、リモートワーク、ソーシャルディスタンス、感染経路を遮断するマスク、換気、手洗いなどが重要です。ウイルスは低温、乾燥で感染力が強まるため室内は20度以上、湿度40%以上に保つことが肝要と考えられます。特別のGame Changers（ワクチン、治療薬）が現れない限り新型コロナとのお付き合いは長くなることが推測されます。一つ一つ有効で確実な対策を見出し学びながらこのウイルスと共生できる日を待たなければなりません。ポリオのお話に絡め今直面している新型コロナについてお話させていただきました。最後にもう一度ロータリー財団へのご寄付をよろしくお願い申し上げます。





米山記念奨学生 ハサン メェラジ

バングラデシュについて

バングラデシュは、人口が1億6,200万人を超える、インドに近い南アジアの国です。バングラデシュは、西、北、東がインド、南東がミャンマー、南がベンガル湾と接しています。ダッカはバングラデシュの首都です。バングラデシュはベンガル地域より大きく、東に位置しています。

現代のバングラデシュの国境は、地域が新しく形成されたパキスタンの自治領の一部として東パキスタンになった1947年8月のインドの分離時に、ベンガルの分離によって確立されました。その後、民主化運動はベンガル民族主義と民族自決で大きくなりました。それがバングラデシュ独立戦争につながり、最終的には1971年にバングラデシュが主権独立国家として誕生しました。バングラデシュは、言語と民族性に基づいて作られた世界で唯一の国です。

1947年8月14日、英領インドは2つの国を形成するために分離されました。そのうちの1つは現代のインドで、もう1つはパキスタンです。パキスタンには2つの地域があり、1つは東パキスタン（現

代のバングラデシュ）であり、もう1つは西パキスタン（現代のパキスタン）です。東パキスタンの人々はバングラ語で話し、西パキスタンの人々はウルドゥー語で話しました。1948年3月21日にパキスタン総督モハammadアリ ジンナは、ウルドゥー語をパキスタンの母国語とすることを宣言しました。東パキスタンの人々はそれに反対し、西パキスタンが1952年2月21日に多くの東パキスタン人を殺害しました。私たちはその後、1971年3月25日～1971年12月16日にかけて戦い、自由を手に入れました。教授、ジャーナリスト、医者、芸術家、技術者、作家などバングラデシュの知識人がダッカの自宅から拉致され、パキスタン軍に殺害されました。1971年3月25日～1971年12月16日まで、300万人が殺害され、40万人の女性がパキスタン軍から性的暴力を受けました。1971年12月16日に私たちは新しい国になりました。バングラデシュの国旗は、緑の野原の上にある赤い円盤（日本の国旗と同様）で構成されています（赤色 - 日の出と死んだ人の血、緑色 - 緑のあおあおとした）。

バングラデシュの大統領はアブドゥル ハミド、首相はシェイクハシナです。ダッカはバングラデシュの首都です。バングラデシュ通貨はタカです（100円=80タカ）。日本-バングラデシュ間の往復旅費は7～12万円です。ホテルで一泊2,000円～1万円掛かります。食費は1日200～1,000円です。バングラデシュには電車、バス、タクシー、車、バイク/原付、自転車、フェリー、飛行機、ボート、スピードボート、人力車、CNG（アウト力車）などがあります。メトロ/サブウェイと新幹線はありません。ただしダッカでは、メトロが2022/2023年に、新幹線も5～6年後から開通します。バングラデシュにはイスラム教徒（89.5%）、ヒンドゥ教徒（9.5%）、仏教徒（0.6%）、キリスト教徒（0.4%）がいます。



バングラデシュには多くの有名な場所があります。バングラデシュは世界で最も長い砂浜があります（150km）。有名な湖、滝、山、島があります。150 個ほどの茶畑があります。イーダルフィトル（1 ヶ月の断食）とイーダルアザ（動物を犠牲にする）というイスラム教のお祭りもあります。ドゥルガープージャはヒンドゥ教、ブッダ・プルニマは仏教、メリークリスマスはキリスト教のお祭りです。またバンガルカレンダーがあり、ポヘラボイシャック（4 月 14 日）は新年です。立春であるポヘラファ

ルゲン（2 月 13 日）と作物の収穫であるノバンナ（6 月 16 日）は有名なお祭りです。また毎年ダッカ国際見本市が開催され、1000 の屋台（エレクトロニクス、自動車、陶磁器、機械、カーペット、玩具、織物、メラミン製品、衛生製品、手工芸品、既製服、家電製品、加工食品、家具、織物、プラスチック製品、ジュート製品、皮革製品、化粧品、スポーツ用品、ジュエリーなど）が参加します。

バングラデシュにはおもてなしの心があります。ぜひバングラデシュに来てください。



生徒たちが楽しみにしている神戸市立友生支援学校 招待ボウリング大会を今年も開催しました



令和2年12月11日に、神戸市立友生支援学校招待ボウリング大会を例年通り開催することができました。新型コロナウイルス第三波の中でありましたが、参加する生徒さんの人数を会場である神戸六甲ボウルの平常時の受入可能客数の50%以内にすると、具体的に言うと高校三年生のみ45名に参加を絞って頂くことで、開催できました。例年よりも少ない参加人数でありましたが、好プレー、珍プレー、笑顔、ガッツポーズと生徒たちの歓声、笑顔を身近に感じ、参加した会員みんなが充実感を得ることができたのではないのでしょうか。

この事業は1981年より40年間続いている当クラブの大切な社会奉仕事業です。当クラブが地域の

支援学校、養護学校の生徒たちにボウリングを通じて大勢の仲間とスポーツの楽しさを体感して頂き、人と人とのつながりの大切さを学んで貰うというもので、大変有意義な事業であります。いましばらくコロナの影響で縮小開催になろうかと思いますが、新年度も生徒の皆さんが参加して喜んでいただけることを願うばかりです。

今年度、色んな事業が中止になる中、ボウリング大会をしたいと言って下さった友生支援学校様、受け入れてくれた神戸六甲ボウルのおかげで社会奉仕委員長として貴重な体験ができました。

(社会奉仕委員長 植村 浩史)

コロナに負けず、神戸市立青陽東養護学校 招待ボウリング大会を開催しました



友生支援学校招待ボウリングに続き、令和3年1月8日に青陽東養護学校の皆さんをお招きしてボウリング大会を開催しました。前日、暴風・波浪警報があり、悪天候で中止になる恐れがありましたが、無事開催でき、高校3年生36名の生徒の皆様に喜んで頂き、ほっと胸をなでおろしました。今回は、参加している生徒の方と、会話もでき、スペアーやストライクを取った後に、「楽しい！面白い！！」と聞くことができ、社会奉仕委員長としてだけではなく、神戸六甲ボウルを運営に関わっている立場として、ボウリングセンター冥利に尽き嬉しくありました。

重い球を投げて、10本あるピンを弾き、競い、ストレス解消する。仲間と、先生と盛り上がる。ボウリングを通じて共に一喜一憂して人と人との絆を繋ぐ一助になったのではないのでしょうか。

最近、ネットゲームやユーチューブといった、同じ時間消費産業に押されがちなボウリングですが、場を共有して人間として大切な絆を築くのに大きな役割を果たしていると改めて気づくことができました。社会奉仕委員長となって、日頃のボウリング場の関係者という立場を離れてこそ味わうことができた貴重な体験でした。

(社会奉仕委員長 植村 浩史)



麦 志明

—東町法律事務所—

この度、令和2年9月15日付で伝統と格式のある神戸東ロータリーに入会させていただきました麦志明（ばく・しめい）と申します。

本日は、私の自己紹介ということで貴重なお時間を頂戴し大変恐縮です。

私の生年月日は1976年12月30日、辰年の満43歳、といってもまもなく満44歳で、既にカウントダウンが始まっているところでございます。

名前からもお分かりいただけますように、私の出自は華僑でございまして、在日の3世にあたります。また、こちらにいらっしゃる、面白く、楽しく、そしてカッコ良い鮑（パオ）会長の奥様とは、いとこの関係にございます。

生まれてから現在までの間、司法修習の期間を除き、ずっと神戸に在住しております。出身校は神戸中華同文学校に中学まで通い、その後兵庫県立神戸高等学校に進学しました。大学進学間近の平成7年1月17日には、阪神・淡路大震災も経験いたしました。平成7年は、センター試験が1月15日、翌16日にセンター試験の自己採点（これが個人的には既に結構な大地震であったわけですが、）更に翌日追い打ちをかけるように現実の大地震に見舞われ

てしまい、自宅も全壊認定を受けました。その後、阪神間、特に神戸市内の郵便が途絶されてしまい、大学の願書が思うように入手できない中、幸いにして神戸大学法学部に進学することができました。その後、3年時より何を思ったか司法試験を志し、運よく平成12年に司法試験に合格することができました。その後2年間の司法修習を経て、大阪にある弁護士法人大江橋法律事務所において、弁護士としての第1歩を踏み出しました。この大江橋という事務所は、企業法務・渉外法務を主要な業務とする大阪で一番大きな事務所で、また、私は入所した当初は（ひょっとすると今も）、標語が某栄養ドリンクと同じく「24時間戦えますか」という、大阪で一番働く（働かされる？）事務所であり、一步間違えば、第1歩にして足を踏み外すところでした。このような事務所で、2003年ころにおけるレオマワールドの民事再生、2006年ころにおける松村組・福知山カントリークラブの民事再生、2008年ころにおけるワールドカップチケット入手の失敗により破産した旅行会社の破産管財等を経験させていただき、上海での事務所勤務も経験いたしました。このような経歴及び在日華僑というバックグラウンドから、幸いにして、大江橋法律事務所を退所した後も、駐大阪総領事館の法律顧問を拝命したり、また、中国との取引に関連したコーナン商事株式会社（いわゆるホームセンターのコーナン）の取締役の不祥事に際しては、取締役側代理人として弁護活動を行って参りました。

既然大先輩である道上先生から入会の際にご紹介いただきましたが、私は、現在、神戸にある、弁護士法人東町法律事務所においてパートナー弁護士を務めております。弊事務所は、たまに神戸東ロータリーにメイクアップにお邪魔させていただいている上谷佳宏弁護士が代表を務めておりますので、上谷とともどもお引き立ていただければ幸いです。実は、



当初、入会式の際に道上先生が私をご紹介されるとお伺いいたしまして、どのようなご紹介をなさるのか、エライことをおっしゃられるのではないかと思います、戦々恐々としておりましたのは、公然の秘密であります。また、令和2年4月より令和3年3月までの間は、兵庫県弁護士会において副会長も務めております。今年度の弁護士会の正副会長が集う役員会も開催日が火曜日の午後のため、例会と重なってしまうことも多く、なかなか思うように参加できていませんが、どうかご容赦いただければ幸いです。

さて、私の趣味について紹介させていただきます。私は、ピュアオーディオ、カメラ（これはあくまでもカメラであって、写真ではないところが大事です。）、ロードバイク、自動車、果てはエアガン等、色々な分野の趣味に興味をもっておりますが、これらに共通するのは「機械をいじる」という点で、極端に言えば「機械をいじる」ことであれば、何にでも興味を持つ可能性があります。

先般開催された会合でお話しさせていただいたところ、神戸東ロータリークラブにも、自動車に大変造詣が深い諸先輩方がいらっしゃる事が分かり、更なる深みにはまらないか既に心配になってきております。

なお、私が勤務している事務所は居住地にあり、裁判所や弁護士会館は神戸駅の方にあるのですが、ぎりぎりまで事務所で仕事をし、その後、裁判の期日や弁護士会の会務のために移動する際には、晴天であればロードバイクで移動しております。こちらにあるロードバイクにまたがり、時速30km～40kmくらいで、国道2号線や海岸通を疾走（はた目には暴走かもしれません）している私を見かけた際は、決してあおったりせず、温かい目で見守ってくださいますと幸いです。

以上のとおり職業も趣味、ひたすらマニアックな道を歩む若輩者ではありますが、どうぞ皆様のご指

導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。





古津 彰宏
—古津タイル—

2020年3月3日に、岡様、山本康一郎様のご紹介でこの伝統と格式のある神戸東 RC に入会させて頂きました、古津彰宏です。

私は、昭和34年5月24日に神戸で生まれました。初めての男の孫ということで祖父からは後継ぎができたとか大層かわいがられ、誕生日には社員総出の酒も入った大宴会だったらしいです。

その後すくすくと育ち神戸市立池田小学校、西代中学校、兵庫県立長田高校を経て京都工芸繊維大学工学部建築学科に進みました。このクラブにも長田高校の同窓の先輩がいらっしゃると聞いております。よろしくお願いします。

高校時代は楽しい思い出でいっぱい、今、どの時代に戻りたいかと聞かれましたら、非常に悩みますがやはり高校かなと思います。高校では柄に合いませんが生物部に所属していました。高3の夏休みに入ると、受験勉強を高校の教室で自習していました。そういう人は他に何人かいて夏休みの終わりにはその時の同志で打ち上げをしました。いい思い出です。

大学に入ると建築の勉強に真摯に取り組む、徹夜は常時でいつも睡眠不足になっておりました。鈴木会

員とはその時の同級生です。製図室での飲み会やゼミ旅行を一緒に楽しみました。クラブ活動は体育会競技スキー部に所属しておりました。

昭和57年にゼネコンの株式会社松村組に入社し11年間勤め、はじめは工事担当で、その後設計業務に従事し、後半はCADシステムの開発をしました。当時のCADですが、航空機、造船、プラントの設計では使われていましたが、建築CADというのは実用レベルでは存在していませんでした。社内向けに作ったのですが評判が良く、ソフト会社と提携し外販しようという事になりました。当時はバブルで高額にもかかわらず沢山売れました。その間、会社に入るロイヤリティーを考えると、短い間しか勤めませんでしたが私を雇った元は十分とれたのではないのでしょうか。

松村組では仕事以外でもスキー同好会を作ったりクリスマスパーティーを企画したりして充実した日々を送らせて頂きました。

このまま仕事を続けたかった気持ちもありましたが、意を決して1992年に古津タイルに入社いたしました。当社は1923年に祖父が創業いたしまして現在創業97年です。神戸と大阪に拠点をおきマンションやビルの外壁などのタイルの工事とタイルの小売販売をしています。また、10年前にITUという別会社を設立しネット販売もやっています。

このように順調に人生を歩んでおりましたが、思いもよらない大イベントが待ち受けておりました。2度の心筋梗塞です。

1回目は2006年右冠動脈です。この時は手術室で心室細動が起こり電気ショックで生き返りました。あまり経験のある方は少ないと思いますが、電気ショックを受けた本人からすれば痛さで目が覚めたという感じです。

凝りもせず2回目は2011年に今度は左冠動脈の一方が詰まりました。カテーテルできれいに流れる



ようになりましたが、心筋に対するダメージは大きく 1/3 程度しか動いておりません。しかしながらそれでも元気に生きております。走るとか重い荷物を持つとかはできませんが、日常生活においては全く支障を感じておりません。

現在の私ですが、趣味はダイビングと旅行です。ダイビング歴は 30 年ほどで西表島をベースにしております。

また家内とは学生時代からの付き合いで結婚 36 年です。彼女は 10 年ほど前までは市内のライブハウスで JAZZ やポップスを歌っておりました。今は年数回のライブをやっています。本業は英会話講師です。

自己紹介は以上ですが、ほかに私は全国タイル業協会の理事で需要喚起委員長をやっています。日本においては年々タイルの使用が減ってきておりますが、海外では反対に右肩上がりです。1 人当たりのタイルの使用量が日本の 0.3㎡に対し世界平均は 1.7㎡と約 1/6 しか使われておりません。市場規模は世界の 1/300 程度です。その中でなんとか需要をつくりだしていくのが私に課せられた使命です。

今後ロータリーの交流の中で、皆さんのお知恵をお借りすることができないかと考えております。よろしく願いいたします。





▲ 7月28日「ロータリーの変容」
パストガバナー 瀧川 好庸 氏



▲ 8月4日「臨時総会 決算・予算」



▲ 9月1日「最近の立法及び司法書士業務」
司法書士 吉田 博 会員



▲ 9月15日「天宮 遥の私はピアノ」
ラジオパーソナリティ 天宮 遥 氏



▲ 9月29日「神戸万国医療財団」
神戸万国医療財団 理事長 F.E. レオンハート 氏



▲ 10月6日「ビヨンド・トゥモローにける思い」
元高知県知事 橋本 大二郎 氏



▲ 10月27日「56年ぶりのオリンピックを迎えて」
東京オリンピック競技委員 伊藤 慎之 氏



▲ 12月1日「年次総会 理事・役員選挙」



▲ 11月10日「医療産業都市 神戸」
神戸市副市長 今西 正男 氏



▲ 12月22日「2019年ラグビー・ワールドカップを振り返って」
元ラグビー日本代表 高知県観光特使 大八木 淳史 氏



▲ 11月17日「ホスピスボランティア ハワイ研修プロジェクトについて」
公益財団法人神戸国際医療交流財団 法人事業部長
後藤 彰大 氏



▲ 1月12日「新年に臨んで・日本の気骨」
神戸西ロータリークラブ 笹倉 宜也 氏

余韻会（俳句同好会）

令和二年七月二十一日

於 神戸メリケンパークオリエンタルホテル

帰宅して手洗ひうがひ麦茶かな

奥田 好子

麦茶入れ今日一日の話咲く

執行 執艸

日盛のテニスの後のジンフィーズ

角田 伯堂

山開きとて人もなく音もなく

則岡 弘士

レース後にひんやり麦茶のラッパ飲み

塚本 宗哲

初蟬の自慢気に鳴く昼下がり

壺井 仙岳

散歩して待ちどほしきは麦茶かな

松谷 泰山

日盛に誰を想ふか影法師

神田 淡京

日盛の雀夢中に砂浴ぶる

村野 離翔

余韻会（俳句同好会）

令和二年八月二十四日

於 神戸メリケンパークオリエンタルホテル

届けたき笑顔を込めてお中元

奥田 好子

人去りて広き公園盆の月

執行 執艸

コロナ禍や見え隠れする盆の月

角田 伯堂

ぼつりぼつり急げ我家の干布団

塚本 宗哲

お中元のみが便りの友となり

壺井 仙岳

家族にて亡き父母偲ぶ盆の月

松谷 泰山

盆礼や色とりどりの京銘菓

吉井 聖倅

遠き日に想ひめぐらす盆の月

神田 淡京

一族の集ふことなく盆の月

村野 離翔

お稽古を終へ満ち足りて星月夜

飯田 美音



余韻会（俳句同好会）

令和二年九月二十八日

於 神戸メリケンパークオリエンタルホテル

異国めく蘭の花咲く応接間

奥田 好子

一輪の明るき蘭の開きけり

執行 執艸

長き夜や羊は何頭跳んだやら

角田 伯堂

秋風にコルトレーンの心地良し

則岡 弘士

星雲に空想科学の夜長かな

塚本 宗哲

蘭の香に誘はれ来たる友の家

松谷 泰山

終電が過ぎ行く後の夜の長し

吉井 聖倅

酔ひどれて路地にまぎれる夜長かな

神田 淡京

子の部屋の夜長の灯し信じけり

村野 離翔

様々な思ひ出話良夜かな

飯田 美音

余韻会（俳句同好会）

令和二年十月十九日

於 神戸メリケンパークオリエンタルホテル

立ち話こぼれ話や秋の声

奥田 好子

一輪の大白菊が独り立ち

執行 執艸

保久良山吹き来る風は秋の声

角田 伯堂

秋晴や全身染まる空色に

則岡 弘士

菊の香に誘はれ来たる泉湧寺

松谷 泰山

過疎の村大きく聞こゆ秋の声

吉井 聖倅

競ひ合ふいづれ劣らぬ菊人形

神田 淡京

菊の香の何とも寂し時間かな

高橋 恵信

せせらぎのリズムに宿る秋の声

村野 離翔

丹精を込めし菊花の並びをり

飯田 美音

余韻会（俳句同好会）

令和二年十一月十六日

於 西村屋 花みかげ

稜線に彩り放ち冬に入る

奥田 好子

夕晴れて色改まる冬紅葉

執行 執艸

空澄んでやさしさそよぐ菊の花

畑崎 青峯

川沿ひの屋台と並ぶ冬紅葉

角田 伯堂

小春日や絵画仲間とバスに乗る

則岡 弘士

ハーブ園ゴンドラからの冬紅葉

塚本 宗哲

冬紅葉色彩やかにせまり来る

松谷 泰山

閉店の張り紙破れ冬に入る

吉井 聖倅

冬紅葉絨毯模様の山の色

神田 淡京

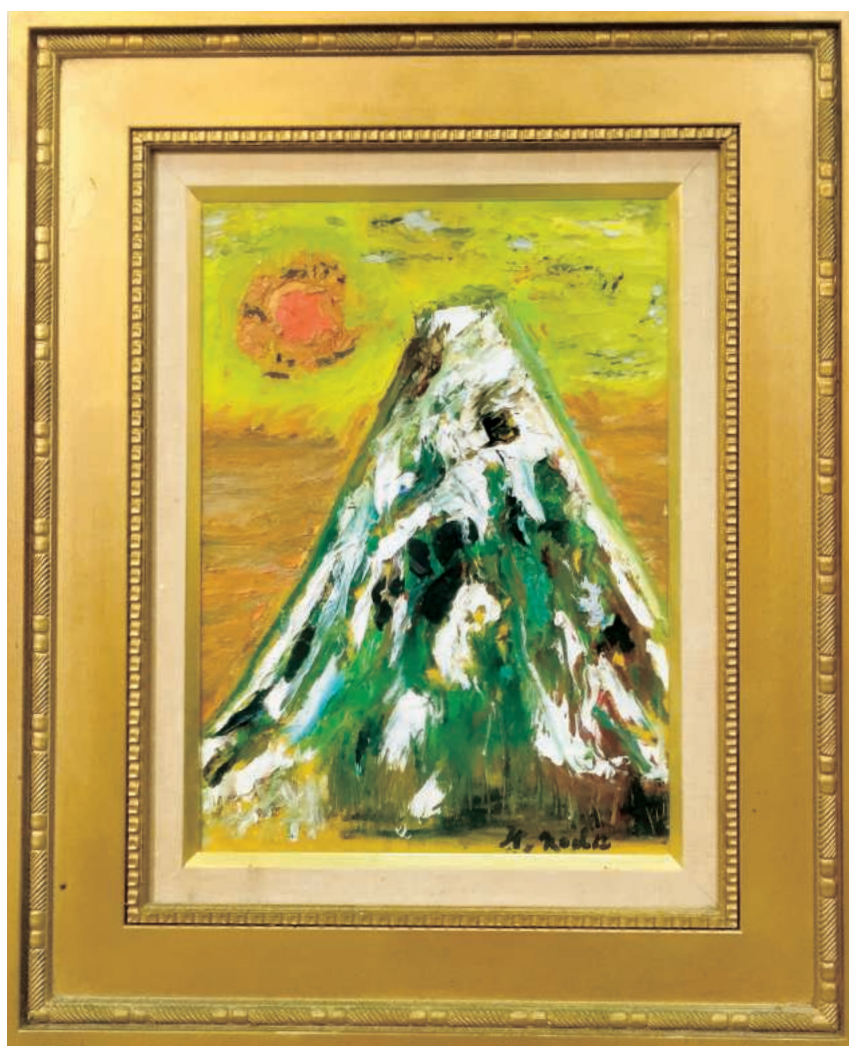
湯けむりの湯屋の隙間の冬紅葉

高橋 恵信

陽に燃えて翳りに沈み冬紅葉

村野 離翔





絵と文 野田 晴清

「美しき日本の霊峰富士山」

富士山のある視点より絵く

CONTENTS

会長挨拶	1
ガバナー公式訪問	2
五百旗頭 真名誉会員卓話「コロナ後の世界と日本」	4
会員増強月間	11
ロータリー財団月間	14
米山記念奨学生報告	16
友生支援学校招待ボウリング大会	18
青陽東養護学校招待ボウリング大会	19
新会員自己紹介	20
例会スナップ	24
余韻会	26

編集後記

2020 年は神戸東ロータリークラブの会員にとって、さらには世界の人々にとって忘れられない年になりました。

2021 年 1 月 13 日に、2 度目の緊急事態宣言が兵庫県他に発出されました。又かと言う思いがあるものの、今回は、コロナの実態が分かってきましたし、ワクチンが完成してやがて接種が始まろうとしています。

従って、今回の宣言にかかわらず、2021 年を希望の年としてスタートしましょう。

今回の第 2 号の会報から、希望の種を読み取って、前進致しましょう。

広報委員長 吉田 博